

本年度の重点目標	①生徒の主体性と責任感を育む教育活動の充実 ②社会で必要となる力を育む全体指導の徹底と、生徒個々の状況に応 ③探究的な学び、協働的な学び、個別最適な学びの充実 ④総合学科での学びを生かした進路希望の実現 ⑤職員が働きやすい環境				
項目(担当)	重点目標	具体的方策	達成度	最終評価	次年度への課題 次年度への行動目標
式 (総・集 会)	体育館にて通常の式典を行う。時季によりHRでも式典を行えるよう、儀式礼法を心掛ける。	各式典および集会における集合状況・身だしなみの他、TPOに応じた行動をとれるよう生徒に指導する。	A	・季節に応じ、体育館での対面による式典や体調面を考慮しオンラインでの式典などを行った。 ・身だしなみを整えることに注力しTPOに応じた行動をとれるよう指導した。	・2学期制に伴い、長期休業の前後に行う全校集会の在り方を検討し、学年集会として運営していく。
PTA活動 (総・外部との連携)	(1)PTA活動の充実を図るとともに、保護者の学校行事への参加率向上に繋がるよう、さまざまな行事を通じて、保護者相互の連携を強める。	中川青和高校、惟信高校との連携。学校行事参加をPTA役員理事に限らず、全PTA会員に促し、できるところで多くの方に関わってもらえるようにする。	B	・近隣高校との連携をすることができず、地域の見守り活動が縮小された。 ・本校の活動としてはたくさんのPTA役員の協力のもと運営することができた。	・PTAの活動時期の見直しと偏りをなくするため月1回程度の活動となるよう年間計画をたてる。
	(2)地元地域との連携強化を図り、地域に愛され、誇りとなる学校となるよう努める。 (3)地域関係諸機関との連携を強化し、地域防災の意識高揚を図る。	PTAや地域との連携を図りながら、PTA機関紙を充実させ、活動の発信を積極的かつ適時に行う。本校のさまざまな活動内容を、より魅力のあるものとして外部に発信できるよう努力する。 生徒自身が防災活動に参加する機会を確保するとともに、校内における防災ポスターの掲示や有事に備えた防災訓練を実施する。また、地域関係諸機関の協力を得て生徒個人が地域に貢献できる行動力を身につける。	B A	・陽光のデジタル発行すること、学校行事をその都度、HPやSNSで発信することができた。 ・防災訓練では地域住民も参加し、消防署と協力して様々な体験活動をした。 ・高校生防災セミナーでは本校の取り組みを発表し好評を得た。	・陽光の記事内容の充実や、HPやSNSの掲載回数を行事のみだけでなく日常の様子なども含めて発信していく。 ・体験内容と時間調整と共に、より多くの体験ができるように計画をしていく。 ・高所避難のタイミングを開始時にせず体験の合間に行い、体験場所での避難や高所への避難の経路なども確認させる。
(学習指導)	2学期制についての対応と授業内評価の充実	教務部会、教科主任者会を定期的に開催し、情報を吸い上げ、不安要素を早めに解消していく。	A	・教科主任者会をほぼ毎週開催し、やることの周知や各教科の不安を早めに吸い上げ、対応することができた。	・期限の設定はできたが、期限内に完了できなかったものもあったので、教務作業も含めて勤務時間内で完了できるように設定をしたい。
		ワーキンググループと連携し、授業内評価の手引きの作成や研修の機会を設ける。	C	・授業内評価の手引きについて、案までは作成することができたが、ワーキンググループと共有するまではできなかった。	・カリキュラム変更を検討しているので、授業内評価も含めて学校全体で考えていけるようにしたい。
(進路指導)	(1)生徒個々の夢や適性を見据え、総合学科での学びを生かした指導体制を確立する。	近年の入試動向を把握し、進路の手引きや各種ガイダンスの内容をより効果的なものにして、本校の進路指導についての共通理解をはかる。また、進路検討会を実施して進路に関する生徒情報の共有を深める。	B	・具体的方策に記載されているガイダンスや進路検討会を実施した。 ・普段のコミュニケーションを密にとり生徒情報の共有を積極的に行った。	・本年度は第3学年のみ進路検討会を行ったが、他学年でも実施していきたい。
	(2)インターンシップや大学での学びの拡大により、夢を持たせ主体的に将来設計を構築させる。	職場見学会や知の探究講座等への参加を積極的に勧める。	A	・職場見学会や一日看護体験等、開催されている講座の情報を漏れなく生徒へ伝えることができた。	・生徒の将来の夢と関連がある講座等により積極的に参加してもらえるとよい。
	(3)補習・模試・共通テスト・資格取得等へ意欲的に取り組ませることに、粘り強く挑戦する生徒を育成する。	補習・模擬試験等についての情報や将来の重要性の周知を強化し、主体的な参加に結びつける。	B	・進学に必要な生徒が受験、受講できたと考えている。	・採用する模擬試験を精選し、より生徒の目指す学力レベルに合ったものにしていきたい。
	(4)保護者へ提供する進路情報の充実と教員研修の充実。	保護者会では教育資金に関するパンフレットなどの配布資料の内容を充実させ、必要な情報を発信する。	B	・主に教育資金に関する資料を配布することで情報提供を行った。	・各家庭の経済状況も踏まえながら、生徒に合った情報を個別に発信していきたい。
(生徒指導)	(1)いじめ防止基本方針に則り、いじめのない安心・安全な学校づくり。	生徒観察や心の健康アンケートなどを通し、生徒の心理変化や環境変化に気づき、早期発見に努め学年・学校全体で即時対応をする。	B	・いじめ防止基本方針に則り、担任から情報共有を受け、迅速に対応することができた。 ・特に、各担任の先生方の生徒の観察力・日頃の指導のおかげです。	・いじめの予兆を見逃さないように、特に経験の浅い先生方をどうサポートしていくかが課題である。
	(2)将来の社会人、職業人としての規範意識やマナーを徹底指導し、基本的生活習慣が確立された高い品位、品格と道徳心を持つ生徒の育成。	定期的な点検、登校指導、巡回指導により、制服の正しい着用・清潔な頭髮の維持・装飾品の不着用を徹底させる。	C	・身だしなみについての共通理解は難しく、昨今の生徒指導の現状を職員全体へ周知することができなかった。	・生徒指導提要の内容を受けて、本校としてより良い指導の在り方を模索していきたい。
	(3)個に応じた指導の充実。	学年および教育相談との連携を密に回り、個別の事情に配慮した指導を行う。	A	・様々な案件があったが、先生方の協力・助言があり、個別の事情に配慮した指導ができた。	・情報共有のタイムラグをいかに少なくするかが課題である。
	(4)交通安全指導の徹底。	校内外での交通安全啓発活動を充実させ、意識の向上を図る。	B	・港警察署員・港区役所職員の皆様の協力をいただき、活動することができた。	・交通マナーの周知やヘルメットの着用促進を行っていきたい。
生徒会活動 (生徒会)	(1)生徒会活動、学校行事、部活動への意欲を高め学業との両立を図る。	学習と部活動の両立できる環境を整えるなど、部活動に所属する部員数を増やす。部活動の精選とあり方を見直し、持続可能な部活動運営ができるようにする。	B	・学習と部活動の両立を意識した取組を進め、運営改善に一定の成果を見られたものの、部員数の減少が課題として残った。	・部員数の減少の要因を分析し、活動内容や体制を精選するとともに、生徒のニーズを踏まえた魅力ある部活動づくりを進める。
	(2)生徒会活動を充実し、生徒が自ら意欲的に学校づくりに参画する機会を作る。	生徒会執行部との連携をしっかりと回り、学校行事を生徒が主体性を持って企画・運営できるように指導・支援する。	A	・週に2回、執行部会を開催し、行事に備えた活動ができた。 ・季節のイベントを企画運営し、主体的に活動ができた。	・来年度も継続して、生徒会執行部が主体的に活動することを見守りたい。
	(3)地域交流やボランティア活動の推進により自己有用感を醸成する。	実施可能なボランティア活動を検討し、年間を通して計画的に実施していく。	B	・岩手県大船渡市の林野火災の復興支援活動をおこなった。 ・アジア・アジアパラ競技大会が開催される稲永公園でスポーツフェスタにボランティアとして参加した。しかし参加人数を増やすことはできなかった。	・来年度も被災地支援を継続して実施するために、計画していきたい。 ・参加人数を増やす方法を検討していきたい。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	達成度	最終評価	次年度への課題 次年度への行動目標
学校保健 (保健)	(1)計画的、適切に健康教育を充実させ、生徒の心身の健康の保持増進に努める。 (2)清掃指導の充実、施設・設備の定期的な安全点検の実施により、清潔で安全な校内の環境づくりを推進する。 (3)スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカー等との連携を強化し、支援を必要とする生徒への教育相談体制の充実を図る。 (4)自殺予防啓発指導の充実を図る。	・健康診断を適切に行い、事後措置を実施する。 ・学年会や相談委員会を活用し、情報共有に努める。	B	・検診後、早期に受診勧告を配布し、必要に応じて個別指導を実施。健康診断結果については保護者会で配布した。 ・心身の健康状態について、教育相談委員会や学年と情報共有を図り連携を強化した。	・担任、学年だけでなく保護者とも連携しながら生徒の心身の健康の保持増進を図る。
		・教員による指導の下、清掃をしっかりと行う。 ・委員会活動を充実させる。 ・毎月、安全点検を実施する。	B	・清掃日が週3回のため、トイレ清掃が丁寧に行えないなどの課題がある。 ・エコ委員の活動については、ごみの分別や美化デーでの校内清掃を行い、取り組みは良好であった。 ・安全点検の報告が期限内に実施されないことが多い。	・清掃日を増やすことも視野にいれながら、毎回の清掃をより丁寧に行うよう教職員に依頼する。 ・美化デーを有効活用しながら、校内美化に努める。 ・毎月確実に安全点検が行われるよう、実施方法の改善を検討していく。
		・相談支援体制を充実させ、早期対応・専門職との連携を図る。 ・自殺予防啓発体制を整備する。	A	・SSWがほぼ毎週来校したおかげで迅速かつ適切な対応ができた。 ・相談委員会に後期は校長の参加があり、学内での情報共有とともに支援体制構築の可能性を見ることができた。	・相談委員会への管理職の参加。 ・関係機関へのSSWの積極的な働きかけが活きるような保護者との連携強化(介入を嫌う保護者が多いため真のケアに至らない。)の体制づくり
総合学科 (推進)	(1)本校の教育内容を、より多くの人にとって効果的な広報活動を通じた志願者数増加。 (2)「キャリア探究Ⅰ～Ⅲ」のより効果的な指導方法の研究。 (3)総合学科ならではの探究活動や行事での体験を生かした進路指導の充実に向けた連携強化と指導体制の構築。 (4)ICT機器の効果的な活用方法の研究・実践。	学校を紹介する場面を増やすことや、SNSを活用し、学校生活の様子を発信することで、地域の中学生に本校を知ってもらう。また、学校全体の様々な活動をSNSに掲載できるような掲載体制の構築を目指す。	A	・広報活動の充実により、希望調査で第一志望者数は増加した。 ・地域の中学校へのパンフレット配布や上級学校説明会への参加、進学フェアへの参加を通して、本校の特色を直接伝える機会を増やした。	・投稿内容が一部の授業に偏り、学校全体の多様な活動を十分に発信できていないことが課題である。 ・次年度は、授業・部活動・委員会活動など幅広い場から計画的に素材を収集し、動画投稿を含めたSNS発信の充実を図ること、より効果的な広報活動と志願者増加につなげていく。
		地域・企業と連携し問題解決学習に取り組む、達成感や充実感を味わわせ、探究活動を発表する場を設ける。	B	・各学年で探究活動を進めることができた。 ・質の高い成果物を完成させることができた者も、校外で実りのある活動ができた者もいた。	・校外での活動における生徒旅費が問題になったため、連携先を検討する際にどのような内容で連携し、旅費をどうするかまで決めておきたい。 ・もう少し校外で探究を実践出来る場を増やしたい。
		進路指導部と連携したガイダンスの充実とともに、各学年において探究活動の意義を意識した指導ができるようサポートし、それらの成果を生かした進路指導のあり方の研究を進める。	B	・3年生の進路指導の時間を総合的な探究の時間内で行ったが、その内容や進行について連携まではできなかった。	・より計画的で効果的な指導ができるよう、どの時期にどのような内容を指導するのか、進路指導部との調整が必要である。
		ネットワーク業務の効果的・効率的な運用方法を探る。同時に、各教科で行われているICT機器を用いた実践を持ち寄り、情報共有することで、利用シーンを増やしていく。	B	・情報化推進委員会、教育DX推進委員会、ネットワーク担当者で連携し校務、授業の情報化や生徒用端末のBYOD化への対応ができた。	・各教科で行われているICT機器を用いた実践を集約し、共有することが不十分であったため、次年度はこの点に力を入れた。
地域連携 (教頭等)	地域の資源や力を活かした実践的な学びの充実	総合学科としての特色ある授業で地域や企業と連携して、活動してその内容を発信する。生徒が自ら考えて行動する機会を数多く作り、生徒の成長を促す。	A	・地域の住民を巻き込んだ防災訓練を行ったり、保育園や企業と連携して授業したりして、総合学科の特色を生かした活動ができた。 ・その取り組みをメディアを使って広く発信できた。	・地域を巻き込んだ取り組みを今後も引き続き続けていきたい。 ・しかし、週休日の拘束時間も増加してしまうため、活動の時間帯を工夫し、平日に取り組めるような仕組みを検討していきたい。
心身の健康	ウェルビーイングな職場づくりを目指す。	職員室に全職員の席を用意し、仕事に対する意識を共有し、フォローしあえる環境をつくる。 職員室の施錠時間を明示し、それに向けての業務量調整を主任を中心に挙げる。	A	・昨年度の仕事の見える化を踏まえて、主任が業務量の調整を行った。 ・全体として、校舎施錠時間ギリギリまで仕事を完了する職員は減ったが、一部の職員は毎日残っている。 ・長期休業中を中心に年休はとれる体制であるが、日頃から早く仕事を終えることができるような改善策を検討していきたい。	・職員全体として、時間内に仕事を終える意識と休みを取る意識は出来たと思う。 ・施錠時間に管理職が声をかけることなく時間を意識して仕事を進めることができるよう意識改善を進めたい。 ・また、カリキュラムの変更を含め、日常的な教材研究の時間を効率的に行えるような取り組みを検討していきたい。